話 題

平成 26 年度日本水産学会秋季大会を開催して

大会委員長 松山倫也
九州大学大学院農学研究院

MICHIYA MATSUYAMA
Faculty of Agriculture, Kyushu University

平成 26 年度日本水産学会秋季大会は、福岡市の九州大学箱崎キャンパスにおいて 9 月 19 日（金）～22 日（月）に開催された。九州大学での開催は、前回の平成 8 年以来 18 年振りとなる。平成 8 年の大会では総務を担当したが、当時は学会運営会社への業務委託ではなく、受付、プログラム、会計等、全て教員による手作業でやったことを記憶している。九州大学農学部の教職員には 18 名の日本水産学会会員がおり、実行委員として大会業務を分担し、運営に当たった。参加者は 800 名弱で、研究発表は 519 題（内、口頭発表 370 題、ポスター発表 149 題）を数え、秋季大会としてはまずまずの規模であった。九州大学は現在、福岡市西部にある糸島半島に建設中の伊都キャンパスに移転の最中で、半分ほどが移転を完了しており、農学部は平成 30 年に移転予定である。今回の大会が歴史を刻んできた箱崎キャンパスでの最後の開催となった。

総務幹事には大嶋雄治教授になっていただいたが、大嶋教授の手際のよい統括のもと、滞りなく大会を終えることができた。実行委員の方々、協力していただいた関係各位も含め、この場を借りて感謝申し上げる。

総務担当
大嶋雄治，島崎洋平

YUJI OSHIMA AND YOHEI SHIMASAKI

平成 26 年度日本水産学会秋季大会には多数の皆様にご参加頂き有り難うございました。心より御礼申し上げます。

本大会では九州大学箱崎キャンパスの文系地区を中心とした 7 カ所の口頭発表会場（講義室）、2 カ所のポスター会場、11 カ所のゼミ室（本部、クロークを含む）を使用し、18 名の実行委員、助っ人 4 名（実行委員外職員）、学生アルバイト約 50 名で運営致しました。少数精鋭？で奮闘しましたが、久しぶりの九大での開催ということで、様々な点で参加者の皆様にご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。今後学会をお引き受けの機関のためにも、総務として以下反省点を簡潔に述べてさせていただきます。

・九州大学の箱崎キャンパスは福岡空港から約 30 分と交通の便はいい反面、移転を控えて老朽化・整備が出来ておらず、発表会場が狭く一部の会場では立ち見どころに入りきれない事態が発生した。大中小の教室をフルにつかての運用で、どの会場でもどの位の人数がくるか見極めきれなかった。

・ポスター発表では十分な広さの会場を確保できず、予め同意して頂いた方に口頭発表に回って頂いた。また、狭い会場でもできるだけ活発に議論が出来るように、討論時のコアタイムを奇数偶数の演題番号で半々に時間をずらして行い、会場での混雑をできるだけ軽減した。今後多数のポスター発表申込みが予想されるので、ポスター発表を十分に行える場所の確保が重要である。

・参加者に展示に足を運んでもらうことを意図し、大部分の展示をポスターと同じ会場にした。結果、確かにポスター発表の時間はにぎわったが、それ以外の時は逆に人が少なくなった。もう少し工夫が必要だったと思う。

・旅行会社に学会員の宿泊の手配をお願いしたが、殆ど利用がなかった。また、学内生協食堂が閉まる日があったため昼食用にお弁当の予約も受け付けたが、利用は 24 件しかなかった。今後は必要ないかもしれない。

・役割分担、全体の進行状況、部屋割り、バイトの割り振り、支出状況、参加申込み状況、広告協賛展示の情報、当日の作業等を表にまとめ、Google drive のスプレッドシートに up し情報を共有した。スタッフ皆がネットからアクセスして常時閲覧・書き込み・修正ができるようにした。また作業内容もできるだけ細かく係・発表会場別に作成して望んだので、混乱は少なかったと思う。

・全体の連絡会は 5 回ほど行った。通常の細かい連絡はメーリングリスト（FreeML）を用いて連絡をとり、情報を共有した。節目には全体連絡会議を行ったが、日

福岡の県花である梅（飛梅）をモチーフとした要旨集

箱崎キャンパスの正門を描いた案内版

程調整が大変なので、MLに附属している「とっとと決めよう」を用いたので日程調整はスムーズにできた。また遠隔地勤務の実行委員がいたのでテレビ会議システムも活用した。

- 要旨集作成はトーヨー企画のWebシステムを使ったのでかなり楽だった。手違いも殆どなかった。ただプログラム編集作業（順番作成）にはいい方法がなく、過去の大会のプログラムを参考に、空欄のスケジュール表に部門・細目の振り分けを手書きで行い、全体のスケジュール調整を行った。

- プログラム要旨集の表紙と会場案内板のデザインは、デザイナーの柚本純さんに依頼した。参加者からは「斬新である」、「博多らしい」といった声が聞かれ大変好評であった。

- 学会4日間の会議等の配置とそれに付随する弁当（会議用270個、スタッフ用196個）の配達が意外と大変なことが予想された。特に初日に会議が集中する傾向があったので、専任の担当とアルバイトを置き、配達表を作って実行したので、弁当が不足する事態は起こらなかった。

- クロックと飲料水サーバーを設置して会員の利便を図った。特に水サーバーは温水がでるので休息室でお湯の管理をしなくて良かった。

大会受付、会計担当
栗原 暁、北野 載

AKIRA KURIHARA AND HAJIME KITANO

大会受付は、筆者ら2名が常在して現金管理を行い、

受付風景

7名のアルバイト学生が交代で参加登録を担当した。また、トーヨー企画の天笠秀雄氏には大会前日に作業の流れを説明いただくとともに、当日は問い合わせデスクを担当して頂いたことで大きなトラブルの無い運営が可能であった。

会計業務では、大会参加費や寄付・協賛金などによる収入と、会場の設営・運営に係る支出のバランスをとることに難儀したが、大会前に定期的に行われた実行委員会連絡会議とあわせ、ウェブ共有ファイルの利用により各担当の先生方と綿密に収支状況を確認することで大きな過不足のない予算執行を行うことができた。

大会後の残務処理を行なう現在、収入額や支出額を正確かつ簡単に管理するための自動計算数式の入ったEXCELフォーマットの重要性を実感しており、過去の大会で作成していただいたものとあわせ、後の大会でも共通して利用可能なフォーマットを引継ぎ資料として準備できればと考えている。

プログラム編集担当
柚本智軌、望岡典隆

TOMONORI SOMAMOTO AND NORITAKA MOCHIOKA

本大会のプログラム編集において、苦労した点、今後のための改善点について、2点ほど述べたい。本大会では、会場のスペースの関係でポスター発表の演題数に制限があり、「ポスター発表希望、口頭発表に変更可」を選択された発表者のうち、半数以上は口頭発表に変更していただいた。プログラム公表後、やはりポスター発表がよいとの問い合わせが数件あったが、すでにプログラムは確定しているので変更できないということで断った。この件に関しては、事前に口頭発表に変更する可能性があることをもっと強調すべきであった。また、座長の選定では、依頼した先生に断られることも度々あり、第二、第三候補を探すこともあった。座長依頼者に「可否」を選択していただくだけであったが、今後の選定の

参考ためにも、引き受けることができない理由を必ず書いてもらうようにすべきであった。

渉外担当

沖野 望, 長野直樹

NOZOMU OKINO AND NAOKI NAGANO

渉外は展示・広告・協賛の依頼から対応までを担当した。展示・広告・協賛の依頼はできるだけ早く行うことが必要であるという情報を得ていたので、2月から準備を始め、4月に入ってから依頼状を順次発送した。当初はなかなか申込を頂けず、依頼状の発送が遅かったのではないかと後悔したが、締め切りの7月末には予想以上の申込を頂いた。

企業展示の会場はできるだけ人の出入りが多い所ということで、ポスター会場と同じ場所を用意した。これまでの件数から20件程度を想定していたが、予想を超えて26件の申込があり、急遽休憩室などにも展示会場を設けることとなった。本大会の展示会場に荷物の受取ができる事務所がなく、展示企業にはご迷惑をお掛けすることになったが、迅速に対応して頂き、混乱することなく設営と撤収ができたことに感謝致します。

最後に本大会の運営に際して予想以上に沢山の企業にご協力頂き、感謝申し上げます。

会場担当

及川 信, 坂口圭史

SHIN OIKAWA AND KEISHI SAKAGUCHI

会場は、及川、坂口の2名で担当した。及川は九州大学水産実験所（福岡県福津市）勤務、坂口は九州大学唐津サテライト（佐賀県唐津市）勤務であり、本学が所在する福岡県福岡市から離れていたため、実行委員会の

会議出席や業務の遂行に若干苦勞した。その点、総務幹事および総務幹事補助の大嶋雄治教授、島崎洋平准教授に多くのお心遣いをいただき、この場をかりて深謝する次第である。また、口頭発表会場のPCシステムのレンタルおよび準備・設営は、株式会社新興社にその一切をお願いした。本大会が支障なく進行了のは、同社のきめ細やかなサポートによるものが大きく、担当の宮崎政信様をはじめとした関係各位に感謝申し上げる。

ポスター会場担当

鬼倉徳雄

NORIO ONIKURA

ポスターについては、パネル設置等の会場準備に際して、前後の会場予約の関係上、厳しいスケジュールとなってしまうことが大きな心配事であったが、発表前日夕方からの3時間と発表終了後の3時間で、無事に設置と撤収を終えることができた。設営業者、アルバイトとの事前の打ち合わせが功を奏したのだろう。発表に関しては、狭い会場でより効果的な議論を行える場の確保を狙い、偶数演題と奇数演題のコアタイムをずらしたが、その目的を十分に果たせたものと考えている。

高校生発表担当

吉国通庸

MICHIYASU YOSHIKUNI

九州大学生物資源環境科学府附属水産実験所では、普段から県内や近隣県の学校からの施設利用の希望に積極的に対応することを心がけている。地元の小・中学校や自治体とは、野外実習・出前授業・職場体験・生涯学習など年に複数回の行事を実施している。また、近年は、春夏の長期休暇期に高等学校の生物部や科学部等の宿泊

口頭発表風景

高校生ポスター発表風景

型実習や高校生物教員グループの宿泊研修も受け入れている。昨今の学術集会の例に漏れず、今回の秋季大会でも高校生の参加発表を企画することとなったが、そうした普段からの利用者との繋がりを利用していただくこととした。高校生物教員の会の世話役を長く務めてこられた教員の方に、福岡県内と九州圏内の生物教員への参加呼びかけをお願いした。大会実行委員会の担当者が動いたのはそれだけである（は、さすがに言い過ぎだが…）。九州圏内から7校9演題、九州以外から5校6演題の参加があった。中・四国地方のみならず、東京圏からの参加もあったことは予想外であったが、3校のSSH指定校が含まれており、指導の教員の方々の熱心さの賜物だと感心した。SSH指定校は自前で旅費を用立てる事ができるが、一般の高校ではとうてい無理な話で、東和食品研究振興会の支援がなければ他県からの参加校への補助で頭を抱える羽目になっていた。SSH校以外の参加校の旅費をほぼ全額賄うことが出来た。同振興会へは深く感謝したい。

交歓会担当
川口栄男

SHIGEO KAWAGUCHI

交歓会は特に問題なく無事終了した。事前受付184名、来賓：名誉会員3名、韓国からの来客3名、事務局3名、賛助会員23名、計32名。招待客は県知事（代読）、九大総長（代理）、九大農学研究院長（代理）計3名だった。下記の点に十分な準備が必要であろう。

1. 学生会員と一般会員の会費が同じでよかったかどうか

検討が必要。2. 学会会場と交歓会場との距離は適当だったか（これに関しては、会場の収容人数や予約状況などの問題もあるので一概に近いところを選べないこともあり得る。とにかく早めの準備が必要であろう）。3. 当日受付の人数についての考慮（会場との打合せをしっかりとしておくことが重要）。4. 来賓・名誉会員へのケア（開会前後でのお世話）。5. 賛助会員・展示関係者の参加人数も事前に考慮（今回は結構この方たちが多く参加した）。

クローク担当
石橋洋平

YOHEI ISHIBASHI

クロークを運営するにあたり、Amazonにてクローク荷札を購入した（4,252円、送料込み）。引換券の紛失には、鍵付き荷物の場合に限り、手持ちの鍵と一致するかによって本人確認を行った。本学会では、貴重品や衣類は預からず、基本的にはキャリーバッグやリュック、ボストンバッグを預かった。利用人数は、9月19日：15名、9月20日：58名、9月21日：85名であった。22日は利用者も限られると予想し、クローク設置を見送った。クロークとして利用した部屋の面積は約25m²であったが、本学会の利用人数では十分な広さであった。教員1名とアルバイトの学生3名、計4名で対応した。他の学会の利用頻度を参考にしてアルバイトの人員を3名としたが、今回に限って言えばこの人数は多すぎた。本学会では、基本的に2名いれば十分に運営可能であった。